聖書のおはなし

2024.6.23

『大臣になるヨセフ』

聖書箇所　　創世記 39章3節～41章45節

主　　題　　共にいてくださる神に信頼して歩んだヨセフ

暗唱聖句　　「あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ、主があなたの道をまっすぐにされる」

箴言3：6

目　　標　　どんなときでも、主が共にいてくださることを信じる。

教会学校のみなさん、おはようございます。

先週のお話でヨセフは何という国へ連れていかれましたか？そう、エジプトという国でしたね。ヨセフはエジプトの王様の家来の家で召使いとして働くことになりました。ひとりぼっちで最初は言葉もわからず、どんなに寂しかったでしょうね。でも神さまがヨセフをまもってくださいましたよ。

**１　ポティファルの家で(39・3～20)**

ヨセフのご主人の名前はポティファルといいました。ポティファルは、一生懸命働くヨセフがとても気に入りました。神様が導いてくださるので、ヨセフはどんな仕事もうまくこなしました。ポティファルは家のことは全部ヨセフに任せるようになりました。

ところが、ポティファルの奥さんは悪い人で、「ヨセフが私にひどいことをしたのよ」とポティファルにうそをついたのです。ポティファルは奥さんの作り話を真に受けて、怒って、ヨセフを牢屋に入れてしまいました。

**２　牢屋での出来事(39・21～40・23)**

何も悪いことをしていないのに牢屋に入れられるなんて、悔しかったことでしょう。でも、ヨセ　フはふてくされず、「神様が助けてくださる」と信じました。牢屋の番人はヨセフを気に入って、いろいろな仕事を任せるようになりました。神様は牢屋の中でもヨセフと共にいてくださったのですね。

****

しばらくしてエジプトの王様に仕える家来が牢屋に入れられました。ある日、その家来が暗い顔でヨセフに.言いました。「変な夢を見たんです」「どんな夢ですか?」家来が夢の話をすると、ヨセフは言いました。「その夢は、あなたがもうすぐ牢屋を出て、また王様に仕えるという意味です。あなたが牢屋を出たら、王様にお願いして私のことも牢屋から出してください」。神様がヨセフに、夢の意味を教えてくださったのです。やがてヨセフが言ったとおりになりましたが、牢屋を出た家来はヨセフのことを忘れてしまいました。

**３　大臣となったヨセフ(41・1～45)**





それから二年がたったある日、エジプトの王様が夢を見ました。川から太った牛が七頭上がってきて草を食べていると、次にガリガリにやせた牛が七頭上がってきて、太った牛を全部食べてしまったのです。目を覚ました王様はエジプト中の賢い人を呼んで、「私の夢の意味を説明できる者はいないか?」と尋ねました。その時、あの牢屋にいた家来が言いました。「王様、私が牢屋にいた時、ヨセフという若者が私の夢の意味を当ててくれました」。王様は、「ヨセフをここに呼びなさい」と命じました。牢屋から出されて王様の前に立ったヨセフは、夢の話を詳しく聞いてから言いました。「王様、神様が夢の意味を私に教えてくださいました。これから七年間は麦や野菜が余るぐらいたくさん取れます。でも、その後の七年は作物が何も取れない飢謹になります。ですから今のうちにたくさんの作物を蓄えておいてください。そうすれば、飢饉の時に困ることはありません」。



ヨセフの説明を聞いた王様は、「あなたのように賢い人はいない。どうかこの国を治めてくれ」と言って自分の指輪を渡しました。なんとヨセフは、エジプトの大臣になったのです。

**いっしょに考えましょう💡**

1. ヨセフは牢屋に入れられた時も真面目に一生懸命働きました。なぜそうできたのだと思いますか。(共にいてくださる神に信頼していたから)
2. ヨセフに夢の意味を教えてもらったとおり、牢屋から出された王様の家来は、いつヨセフのことを思い出しましたか。(王が不思議な夢を見た時)
3. 王様の夢にはどんな意味がありましたか。(七年の豊作のあと、七年の飢謹が起こる)
4. ヨセフに夢の意味を教えてくださったのはどなたでしたか。(神)
5. ヨセフは、王様からどんなことを頼まれましたか。(大臣になって、エジプトの国を治めるように)

**今週の祈り**

「神様。いつも一緒にいて導いてくださることをありがとうございます。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン」